

令和7年度

「運営に関する計画」

自己評価（総括シート）
【最終評価】

大阪市立白鷺中学校

令和8年2月

課題ユニット目標

ユニット	令和5年度目標	令和6年度目標	令和7年度目標
キャリア教育	基礎的・汎用的能力の育成にかかわる項目でのポジティブ回答 90%以上。	基礎的・汎用的能力の育成にかかわる項目でのポジティブ回答 90%以上。	基礎的・汎用的能力の育成にかかわる項目でのポジティブ回答 90%以上。
防災教育	防災 ALT 生徒対象—「やりがいがあった」の回答 90%を目指す。防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった「はい」の回答 80%以上を目指す。地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上を目指す。全校生徒アンケートで「防災について考えることが大切だと感じるようになった」1年生：75%以上、2年生：80%以上、3年生：85%以上を維持する。	防災 ALT 生徒対象—「やりがいがあった」の回答 90%を目指す。防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった「はい」の回答 80%以上を維持する。地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上を維持する。全校生徒アンケートで「防災について考えることが大切だと感じるようになった」1年生：75%以上、2年生：80%以上、3年生：85%以上を維持する。	防災 ALT 生徒対象—「やりがいがあった」の回答 90%を目指す。防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった「はい」の回答 80%以上を維持する。地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上を維持する。全校生徒アンケートで「防災について考えることが大切だと感じるようになった」1年生：75%以上、2年生：80%以上、3年生：85%以上を維持する。
生徒会	①生徒アンケートの結果「学校が楽しい」の項目の学校平均 80%以上をめざす。 ②生徒会へのアンケートで生徒会役員の「やりがいがあった」という回答で 85%以上をめざす。	①生徒アンケートの結果「学校が楽しい」の項目の学校平均 80%以上を維持する。 ②生徒会へのアンケートで生徒会役員の「やりがいがあった」という回答で 85%以上を維持する。	①生徒アンケートの結果「学校が楽しい」の項目の学校平均 80%以上を維持する。 ②生徒会へのアンケートで生徒会役員の「やりがいがあった」という回答で 85%以上を維持する。
元気アップ	①地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、地域の方と交流するのが楽しいと答える生徒が 95%以上。 ②地域の方と積極的に交流できたと答える生徒 85%以上。	①地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、地域の方と交流するのが楽しいと答える生徒が 80%以上を目指す。 ②地域の方と積極的に交流できたと答える生徒 80%以上を目指す。	①地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、地域の方と交流するのが楽しいと答える生徒が 80%以上を維持する。 ②地域の方と積極的に交流できたと答える生徒 80%以上を維持する。
学力向上(授業研究/ICT)	①チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②生徒意識調査で「ICT 機器を使った授業」に対するポジティブ回答 77%以上。	チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②生徒意識調査で「ICT 機器を使った授業」に対するポジティブ回答 78%以上。	チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②生徒意識調査で「ICT 機器を使った授業」に対するポジティブ回答 79%以上。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は課題ごとに「キャリア教育」「防災教育」「異学年交流」「元気アップ」「学力向上(授業研究・ICT)」の教員グループ作り、「豊かな心の育成」を教育目標として特色のある取り組みを行い、今までに「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」、ぼうさい甲子園「優秀賞」(令和5、6年度連続)などを受賞しその成果が認められた。

一方で大阪府中学校チャレンジテストの対府比は学年が上がるにつれて漸増するが、1.00を超えるまでに時間を要している。「話し合う活動」や「ICT機器の活用」が必ずしも授業内容の理解と結びついていない。論理的思考の前提となる語彙力・読解力や各教科の基礎基本の定着が喫緊の課題である。小中連携を一層推進し、基礎的な「知識・技能」を徹底して身につけさせた上で「学びに向かう力」を養成しなければならない。核となる授業力を高め、学力向上を加速させる必要がある。

またワンステップ(不登校支援ルーム)の一層の活用を図り、不登校生徒の改善の割合を増加させることが課題である。日々の生徒の心情を一層細かく把握するために「心の天気」の活用の徹底と相談活動の一層の充実を図りたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- ・年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を95%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を82%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における学級の生徒における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を71%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を85%以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を59%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 87%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「ICT 機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を 80%以上にする。
- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 82%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、「あてはまる」と回答する生徒の割合を 71%以上にする。
- 年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 85%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を 59%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 87%以上にする。
- 年度末の校内調査における「ICT 機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を 80%以上にする。
- 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、授業日の 50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。

3. 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○年度末校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を82%以上にする。85%で達成できた。

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
84%	85%	85%	

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

3.8ポイント減で達成できなかった。

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
—	20.5%	16.7%	

○年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を95%以上にする。97%で達成できた。

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
97%	98%	97%	

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、「あてはまる」と回答する生徒の割合を71%以上にする。71%で達成できた。

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
75%	70%	71%	

○年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を85%以上にする。85%で達成できた。

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
86%	85%	85%	

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。

3年生では、国語 0.966→0.979、数学 0.955→0.970 で達成できなかった。目標には届かなかったが、3年間で同一集団における学習状況は改善した。

57期 (3年)	1年	2年	3年
	令和5年度	令和6年度	令和7年度
国語	0.957	0.966	0.979
数学	0.958	0.955	0.970

2年生では、国語は1.003→1.054で達成できたが、数学は1.036→1.046で達成できなかったものの、昨年度より向上した。

58期 (2年)	1年	2年	3年
	令和6年度	令和7年度	令和8年度
国語	1.003	1.054	
数学	1.036	1.046	

59期 (1年)	1年	2年	3年
	令和7年度	令和8年度	令和9年度
国語	0.949		
数学	0.981		

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を59%以上にする。**63%で達成できた。**

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
59%	61%	63%	

【学びを支える教育環境の充実】

○年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を87%以上にする。**90%で達成できた。**

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
89%	90%	90%	

○年度末の校内調査における「ICT機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を80%以上にする。**87%で達成できた。**

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
88%	87%	87%	

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
23.4%で達成できなかった。

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
—	3.1%	23.4%	

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。**92%で達成できた。**

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
77%	82%	92%	

*数値は2月末現在

大阪市立白鷺中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を82%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を95%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1-1 いじめへの対応】(生徒支援部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちを中心にいじめを許さない学校づくりを行い、いじめの未然防止に努める。 ・いじめ事案が起こった場合は、学校として許さない姿勢を貫き、一貫した対応を行う。被害者のケアを第一優先に行い、必要に応じてスクールカウンセラーや関係諸機関と連携を図り、心の回復にあたる。また、加害者に対しても二度と起こさぬよう、教職員及びスクールカウンセラーでカウンセリングを行い、必要に応じて関係諸機関との連携を図る。事案によっては学級及び学年で事案について考えさせる時間を設け、再発防止に努める。 ・生徒(被害、加害)または保護者の対応に関しては、教職員は一人で対応せず、必ず複数で対応し、学年団、管理職等、学校全体で対応を行う。 <p style="text-align: right;">(安心・安全な教育環境の実現)</p> <p>指標:</p> <p>①校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目のポジティブ回答を95%以上にする</p> <p>②校内調査において「友達を大切にしている」の項目のポジティブ回答を95%以上にする</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 第2回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が99%と指標を上回っている。しかし、数名「思わない」と回答している生徒が居るため、今後は全体で100%を目指せるように、各学年、学校全体的にいじめ・いのちについて考えさせる取り組みを生徒支援部を中心に考えていく</p> <p>② 第2回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が98%と指標を上回っている。しかし、どの学年でも友人関係のトラブルがあり、SNSで相手の気持ちを考えない発言などがあった。</p>	
次年度への改善点	
<p>本校のいじめへの対応については、アンケート結果より肯定的な回答が99%と高い評価を得ており、いじめ防止に向けた取組は概ね成果を上げていると考えられる。一方で、少数ではあるが肯定的に捉えていない生徒も存在しており、また全学年においてSNSを介したトラブルや友人関係に起因する問題が継続して見られる状況である。</p>	

<p>少数意見を含めた生徒一人一人の声をより丁寧に把握するため、アンケートや日常的な観察、相談体制の周知を通して早期発見に努めるとともに、SNS を介したトラブルの未然防止に向けた指導内容の充実を図る。また、友人関係における小さな変化や課題を見逃さず、学級担任を中心とした教職員間の連携を強化し、早期対応につなげることで、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを一層推進していく。</p>	
<p>・取組内容②【1－2 不登校への対応】〈生徒支援部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー育成に伴い、小集団（班活動、学級活動など）の活動を通して生徒同士のつながりを深め、学年や異学年集団（委員会活動、部活動など）の中に一人ひとりの居場所や役割を確保し、いじめを許さない明るい学校づくりに努める。 ・集会、昼食、休憩時間などに生徒観察を行い、問題行動への未然防止、早期発見、初期対応ができるようにする。 ・各学年の生徒支援チーフを中心に教職員間で密な連携を図り、学校全体でいじめやトラブル等の未然防止に努める。 ・登校できなくなってしまった生徒には、学校元気アップ地域事業本部と連携し、「one step」（不登校支援ルーム）の利用を進めていく。教職員と元気アップサポーターと連携をして、保護者との情報共有を行い、不登校生徒の支援を行っていく。 <p style="text-align: right;">（安心・安全な教育環境の実現）</p>	A
<p>指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 校内調査において「学校が楽しい」の項目のポジティブ回答 83%以上を維持する。 ② 校内調査において「友達を大切にしている」の項目のポジティブ回答 92%以上を維持する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ① 第2回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が 88%と指標を上回っている。学校行事や部活動、学級活動を通して積極的に取り組んでいるためと考えられる。 ② 第2回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が 98%と指標を上回っている。班活動やクラスでの活動、部活動などを通して仲間意識を持つことができていると考えられる。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①・②の項目を上回ることができたのは、生徒と日頃から授業中や休み時間等、場所や時間を問わず丁寧な声掛けなど生徒との関わりを深めているからだと考え。大きな問題が起こる前に早期発見・初期対応をすることで子どもたちが安心して学校生活を送ることができている。また心の天気を活用するなどして、少しでも心境の変化があれば声かけをして情報共有を行い、初期対応を素早くすることで問題行動等の未然防止に努めていき、次年度も継続していきたい。</p> <p>しかし、不登校の生徒も年々増加傾向であり、その背景には友人関係や家庭環境、スマートフォンの依存などさまざまな要因がある。そのため、学級担任を中心に丁寧な聞き取りと関わりが必要である。生徒支援部を中心に教職員間での情報共有を行い、ワンステップなどを活用していきながら、学校全体で登校しやすい環境をつくっていきたい。</p>	
<p>取組内容③【1－5 防災・減災教育の推進】〈防災G〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に応じた学年ごとの防災教育を設定し、地域・関係諸機関と連携し、学習を進める。子どもの防災リーダーの育成を目指し、多くの取組を行う。 ・自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力・貢献できるような人材を育成する。 <p style="text-align: right;">（安心・安全な教育環境の実現）</p>	B

<p>指標： <防災 ALT 生徒対象> ・アンケートで「やりがいがあった」の回答 90%以上。 ・防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった。「はい」の回答 80%以上。 ・活動を通じて地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上。 <全校生徒対象> ・校内調査において「防災について考えることが大切だと感じるようになった」の項目に対するポジティブ回答—1年生 75%以上、2年生 80%以上、3年生 85%以上。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><防災 ALT 生徒対象> ・アンケートで「やりがいがあった」の回答 77% ・防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった。「はい」の回答 85% ・活動を通じて地域の方とのつながりができた「はい」の回答 80% <全校生徒対象> ・ポジティブ回答—1年生 91%、2年生 94%、3年生 97%</p> <p>防災 ALT 生徒対象のアンケートでは「やりがいがあった」の項目で達成水準を下回る結果となった。理由として、防災 ALT の活動になかなか参加できない生徒が複数人いたことがこの結果につながったと推測される。参加している生徒からは、「防災意識が高まった」、「知らないことを知ることができた」、「家族の防災意識も高まり、防災バッグなどを一緒に用意した」、「防災減災について興味をもってくれる人が増えた」など活動の意義に肯定的な意見が多く見られた。</p> <p>全校生徒対象の校内調査（第 2 回）におけるポジティブ回答は目標を生徒の発達段階に応じた内容で実施した白鷺防災デーにより、全学年のポジティブ回答が目標達成水準を上回ることができた。今後も保護者、地域、関係諸機関と連携し、防災という教育を通じて命について考える機会をつくっていきたい。</p>	
次年度への改善点	
<p>次年度は現在の 1、2 年生の活動に一度も参加できていない生徒をどのように巻き込んでいくかが課題であると考えている。防災 ALT は居場所づくりの場でもあるが、所属するだけで一切活動に参加しない生徒も見受けられた。今後は活動の意思を年度ごとに確認していく必要があると実感した。</p>	
<p>取組内容④【2-2 キャリア教育の充実】〈キャリア教育 G〉 自分自身をしっかりと内観させ、将来への展望を持たせると共に、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる取り組みをすすめる。 (豊かな心の育成)</p>	B
<p>指標：基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目での、ポジティブ回答を 90%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目での、ポジティブ回答は、90%以上を達成した。</p>	
次年度への改善点	
<p>各教科や特活、道徳等との横断的な取り組みの推進が必要である。</p>	

<p>取組内容⑤【2-3 人権を尊重する教育の推進】〈生徒会 G〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の連携（元気アップ、防災 ALT、各種委員会等）を図り、生徒主体の学校づくりを目標とし、「学校がたのしい」と思えるように、生徒一人ひとりの居場所や役割を確保する。 ・生徒議会を中心に、生徒自らが学校をよりよくするためのアイデアを出し合い、すべての生徒が安心して安全な学校になるよう学校全体で心掛けていく。また意見ボックス等も活用しながら生徒の意見を反映しやすい環境を生徒会で整える。 ・「いじめを許さない学校づくり」を目標に、いじめについて考える日や生徒会新聞を通して、いじめについての啓発活動を行い、生徒一人ひとりが過ごしやすい学校づくりを生徒たちと一緒に考えながら、学校環境を整えていく。 <p>指標：</p> <p>①校内調査において「学校が楽しい」の項目で学校平均 80%以上を維持する。</p> <p>②校内調査において「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」の項目で学校平均 90%以上を目指す。</p> <p>③校内調査において「友達を大切にしている」の項目で学校平均 90%以上を目指す。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>指標①. ②. ③において目標を達成したものの、①「学校が楽しい」の1年生のポジティブ回答が第2回生徒意識調査において79%だったことも鑑み、取り組み等改善の余地があると考えられる。</p> <p>生徒議会では活発な話し合い活動及び議論がなされたが、実行に移すのに時間がかかったため効率的で現実的な取り組みを行っていく必要がある。</p>	
次年度への改善点	
<p>生徒議会で話し合ったことを素早く実行に移すために、教員と生徒会執行部が適度に話し合いながら計画的な取り組みを進めていく必要がある。</p>	
<p>取組内容⑥【2-1 道徳教育の推進】〈道徳教育推進委員会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき、系統立てた実践を行い、生徒の道徳的心情を育てる。 ・学年の課題に合わせて内容を選択し、教材の精選を行う。 ・話し合い活動等をしながら自分の意見を伝え他人の意見を聞く機会を多くとる。 ・道徳の授業の相互参観を行う。（豊かな心の育成） <p>指標：自分の意見を考え深めることができた、他人の意見を聞き尊重することができポジティブ回答 78%を目標にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・第2回生徒意識調査における「道徳の時間に自分の意見を言え、他人の意見を聞き尊重できた」の項目では、全学年のポジティブ回答の総計が 90%となり指標を大きく上回った。 ・学年の課題に合わせて内容を選択し、教材の精選や道徳の授業の相互参観を行うことができた。 	
次年度への改善点	
<p>ICT を活用した授業展開や、ペアワークやグループワークで、生徒同士の意見交流を深めるなど、それぞれの先生方が工夫した授業をしてくださいました。道徳を先生方が見学しあうなどして、より先生方の授業展開のパターンを広げるとともに、より一層生徒の道徳的心情を深めるよう教材研究を進める。</p>	

<p>取組内容⑦【1－3 問題行動への対応】〈生徒支援部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取組み内容【1－2】でも記載したように、小集団や学年・異学年集団を通して、生徒一人ひとりの居場所を確保し、いじめだけではなく問題行動への発展を未然に生徒同士で注意しあえる環境を整えていく。 ・ 集会、昼食、休憩時間などに生徒観察を行い、問題行動への未然防止、早期発見、初期対応ができるようにする。 ・ 各学年の教員を中心に教職員間で密な連携を図り、学校全体でいじめやトラブル等の未然防止に努める。 ・ 生徒が問題行動を起こしてしまった場合は、学年の生徒支援部のチーフ・学年主任と連携し、指導の計画を立て、情報を共有していく。ケースによっては生徒支援部長・生徒指導主事も参画し、必要であれば関係諸機関との連携も図っていく。 (安全・安心な教育環境の実現) 	A
<p>指標： ①校内調査において「学校のきまり・規則を守っている」の項目のポジティブ回答 85%以上を維持する。 ②校内調査において「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」の項目のポジティブ回答 90%を維持する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 第2回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が 95%と指標を上回っている。自分で考え自分で行動する機会などが増えたことでよりきまり・規則を守ろうとする意識が高くなったと考えられる。 ② 第2回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が 98%と指標を上回っている。1－2での記載と同様のものと考えられる。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>ほとんどの生徒が学校のきまり・規則を守っているが一部の生徒が制服を正しく着こなすことができているなどの課題が残る。新1年生に新2、3年生がどのように伝えていくか生徒を中心に考えさせ、計画・実行をさせていく必要がある。新入生オリエンテーション時に実施するのも一案と考える。新2、3年生が模範となるよう生徒支援部を中心に教職員へ伝えていき、生徒自らが律することができるような声掛け、環境づくりを考えていく。</p>	
<p>取組内容⑧【2－3 人権を尊重する教育の推進】〈人権教育推進委員会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内で連携をはかり、人権尊重の教育実践を進める。 ・ 違いを認め合い、いじめや差別を許さない集団を育成する。 ・ 平和学習の取り組みを行うことにより、人権尊重の意識を高める。 ・ 国際理解教育の実践の発展を模索する。 (豊かな心の育成) 	B
<p>指標：校内調査において、 ・「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」(昨年 98%) ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」(昨年 98%) ・「まわりの人と協力しようとしている」(昨年 96%) の項目で、昨年度同様高い水準を維持する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力・学習状況調査の「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「まわりの人と協力しようとしている」の3項目において、ポジティブ回答を昨年度同様に高い水準(平均98%)を維持することができた。 ・ 1学期の終業式では全学級で平和学習が実施でき、平和について深く考える機会となった。 ・ 人権実践交流会において、活発な意見交流を行い教職員の研鑽の場となった。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>各学年や課題ユニットと連携し、人権を尊重する意識の向上につながるような、新たな取り組みを模索していく。</p>	

<p>取組内容⑨【2-4 インクルーシブ教育の推進】〈インクルーシブ教育推進委員会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍の有無に関係なく、特別な支援を必要とする生徒にできる限りの支援を行う。 ・生徒が自立し、主体的に社会参加できる力が養われるような支援を教員が計画し教育活動を行う <p style="text-align: right;">(豊かな心の育成)</p>	B
<p>指標：・全職員に配慮を要する生徒の情報を提供し、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や学級担任、保護者と密に連携をとり、よりよい支援が計画できるようにする ・学年を超えて、特別支援学級担任全員で生徒を支援する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>特別支援学級担当生徒のみならず、学級担任や教科担当と連携しながら配慮を要する生徒に支援をすることができた。</p> <p>学年関係なく、特別支援学級担任が生徒情報や学級での様子等の共有を行うことで円滑な生徒対応を行うことができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>特別支援学級の教室内配置等、生徒がストレスなく学びに向き合えるような環境を整えていく必要がある。</p>	

大阪市立白鷺中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を71%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を59%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実)】〈授業研究G・ICTG〉</p> <p>チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p style="text-align: right;">(誰一人取り残さない学力の向上)</p>	B
指標: 各学年のチャレンジテストの前年度と比較する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
3年生は昨年度対府比95.2%であったのに対し、今年度96.5%となり前年度より向上させることができている。読解力向上にむけての取り組みを結果につなげることができた。	
次年度への改善点	
リーディングスキルテストの結果は、前年度からの向上は少なかった。視写などの読解力向上の取り組みを強化し、学力向上に向けての活動を継続していく。	
<p>取組内容②【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実)】〈国語〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・单元ごとに小テストや漢字テストを継続的に行う。また、プリントや漢字練習の宿題を出すことで基礎学力の定着を図る。 ・読書習慣をつけさせるために、学級文庫や図書館の利用をすすめる。 <p style="text-align: right;">(誰一人取り残さない学力の向上)</p>	B
<p>指標:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を78%以上にする。 ・1学期に1回学校図書室を利用する。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査において「授業がわかる」と回答した生徒は 88.7%であった。単元の導入や語彙力を増やす取り組みにタブレットや小プリントを使った。また、小テストなどで復習しながら知識の定着をはかった。 ・夏休み前は全学年図書室を利用したが、冬休み前は授業の進捗の関係で利用できない学年もあった。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・記述問題をあきらめずに書く力をつけるようにする。 ・文法、古文などの復習をこまめにするこで、基礎の定着をはかる。 ・読書の意識が高まるよう、図書室利用を啓発していく。 	
取組内容③【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈社会〉	B
<ul style="list-style-type: none"> ・宿題を課して、家庭学習の定着を図る。 ・言語活動や話し合い活動につながるような授業の工夫を行う。 ・ICT を使った授業作りを心掛け、アクティブラーニングに取り組む。 <p style="text-align: right;">（誰一人取り残さない学力の向上）</p>	
指標：	B
<ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を 80%以上にする。 ・全学年の提出物の回収率が 8 割を超えるようにする。 ・全学年で ICT を活用し、よりわかりやすい授業を展開する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を 80%の指標を上回っている。 ・全学年の提出物の回収率が 8 割を超えている。 ・全学年で ICT を活用した授業を展開している。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上を図り、言語能力を養う必要がある。 	
取組内容④【4-1 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）】〈数学〉	B
<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り学習や TT を行い、生徒一人一人の学びの充実化を図る。 ・ICT 機器を活用し、分かりやすい授業を行う。 <p style="text-align: right;">（誰一人取り残さない学力の向上）</p>	
指標：	B
<ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を 70%以上にする。 ・全学年で ICT 機器を活用し、よりわかりやすい授業を展開する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目が 69.0%という結果になり、さらに創意工夫が必要である。 ・各学年でチャレンジテストの対策を考え、実践している。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業が分かる」と実感できるようにするために、生徒の学力状況に合わせた授業計画の策定を行う。 ・授業だけでなく、家庭学習でも ICT の活用を検討する。 	

<p>取組内容⑤【4-1 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）】 〈理科〉 興味関心をもたせる・学習意欲を向上させるために、理科室での実験や ICT 機器を利用した授業を推進する。また、基礎学力を定着させるために、プリントを用いた学習や小テストを作成・実施し、また家庭学習教材も工夫する。(誰一人取り残さない学力の向上)</p> <p>指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を78%以上にする。 ・理科室は全学年で、年間90回以上利用する。 ・ICT機器の利用やプリント学習、小テスト、家庭学習課題を週に3回以上実施する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・第2回校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目では、ポジティブ回答の総計が約90%となり指標を大きく上回った。 ・理科室を全学年で、年間約120回以上利用できており、年間90回以上利用する目標を、大きく上回ることができた。 ・日々の授業でICT機器の活用やプリント学習ができており、家庭学習課題や小テストの実施もできている。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題が多く出題される範囲では、演習時間や教えあいの時間を取り、学力の向上を図る。 ・来年度も実験室やICT機器の利用、プリント学習を継続していくが、各教員の指導法が異なるので、互いの取り組みを参考にして指導力の向上に努めていきたい。 ・基礎学力の定着をさせるために、演習問題をくり返し行う。 	
<p>取組内容⑥【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈音楽〉 音楽の基礎的な知識の定着を図り、音楽・表現活動の中で音楽に対する感性や理解を深め、豊かな情操を養う。</p> <p style="text-align: right;">(誰一人取り残さない学力の向上)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校アンケートで「音楽の授業がわかる」と回答する生徒を80%以上にする。 ②定期テストにおける正答率2割以下の生徒を5%以下にする ③各学年で学期に一回以上、班活動などの主体的で対話的な活動を取り入れる。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ① 二学期の学習意識調査では、「音楽の授業がわかる」と回答した生徒は92.2%であった。1年89.2%、2年92.5%、3年94.1%で、3年生は二学期に合唱コンクールで、学習の成果を実技の中で活用する場面が多かったことで数値が高かったと考えられる。1、2年は三学期に合唱コンクールがあるため、学習の成果を感じられるような授業を考えたい。 ② 定期テストにおける正答率2割以下の生徒は、1年生で6.6%、2年0.1%、3年3.6%であった。特に一年生において着実な知識の定着を図りたい。 ③ 各学年、楽曲分析や、合唱コンクールの取り組みにおいて班活動を実施することができた。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>各学年、音楽的な基礎知識の習得を図るため、大型テレビによる提示や班活動などを活用したい。また、その知識を実際に使える場面である、合唱コンクールの取り組み内容について、導入や活動内容を再考したい。</p>	

<p>取組内容⑦【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】（美術）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は美術学習における基礎基本、準備や片付けの丁寧さの定着をはかる。 ・2年生は情報収集や社会における美術、意見交流を経て表現力を想像力の意欲向上を目指す ・3年生は時間の計画性と日常で使える美術作品、個々の作品の共有、自己表現の追求をはかる。 ・家庭学習の提出、作品の完成期限を守る意識の定着（誰一人取り残さない学力の向上） 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を80%以上にする。 ・全学年の提出物の回収率を7割超えるようにする。 ・スモールステップ形式を取り、ICTを活用し、よりわかりやすく説明をする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>校内学習意識調査において「美術の授業がわかる」の学校平均が85.9%であり、指標の80%を超えることができた。全学年においてプリントや提出物も7割は超えている。授業一時間ごとの目標をもち、ここまでできるようにと目安を提示し作品制作を自主的、意欲的に進められるように声掛けを毎時間し時間を意識するような生徒が増えた。ICT機器の活用で細かい制作の仕方、道具の扱い方を説明しやすくなった。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>作品の相互鑑賞や、歴史的な作家についての学習する回数が少なくなりがちなので、一年間の授業計画の中にもう少し丁寧に深く組み込んでいきたいと考えている。</p>	
<p>取組内容⑧【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】（保健体育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット・プロジェクター・電子黒板・拡大資料・ホワイトボードを系統的に使用する。 ・知識の観点からも理解を深めるため、教科書・保健学習ノート・図解中学体育（実技の教科書）を使用し、体力・運動能力の向上を目標に取り組む。 ・種目に応じたグループ学習を取り入れ、生徒同士での教え合い、話し合いの時間を設け、深い学びの時間を設ける。 ・毎時間のトレーニングを工夫して行い、技能を高める。（健やかな体の育成） 	A
<p>指標：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒アンケートにおいて「体育が楽しい」の項目のポジティブ回答が80%以上を目指す。 ② 生徒アンケートにおいて「体育が好き」の項目のポジティブ回答が80%以上を目指す。 ③ 校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「とても思う」と回答する生徒の割合を50%以上を維持する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①においては、第2回学習意識調査の結果は89.4%と指標を上回っている。 ②においては、第2回学習意識調査の結果は84.1%と指標を上回っている。 ③においては、第2回生徒意識調査の結果は59%と指標を上回っている。 すべての指標を上回ることができた。グループ学習など生徒自身で考える深い学びの授業展開ができた結果ではないかと考える。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①と②のアンケート結果で共通していることは、ネガティブな回答が約16%を占めていることである。この運動が苦手な生徒に体を動かすことが嫌いな生徒に対してどうアプローチしていくかが今後の課題だと考える。「できないから運動が嫌い」ではなく、「できるようになったことで運動が好きになった」となるような授業展開を検討していく必要がある。</p>	

<p>取組内容⑨【４－２ 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈技術・家庭〉</p> <p>基礎的な技能を習得させるにあたり、実習の手順作品の制作方法をわかりやすく伝えるため導入において ICT 機器やプリントを用いた説明を工夫する。</p> <p style="text-align: right;">（誰一人取り残さない学力の向上）</p>	
<p>指標：・技術家庭科共に校内学習意識調査における授業がわかるの項目を78%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術では、多くの授業で ICT 機器等を活用し話し合いなども取り入れる。 ・家庭ではパワーポイントなどを用い視覚的にも興味を持ちやすい授業づくりを行い学習意識調査「家庭科の学習は楽しい」のポジティブ回答を86.5%以上にする。（昨年度85.6%） ・生徒が ICT 機器等を使い調べ学習など自主的な学習を取り入れる。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>今年度の指標の校内学習意識調査における授業がわかるの項目を78%以上にするに対して技術84.3%、家庭92.6パーセントであった。また、技術家庭科ともに ICT 機器を用いながらの自主的な学習を授業内に取り組んだ。家庭においては学習意識調査「家庭科の学習は楽しい」のポジティブ回答は91.4%であり、目標値を達成することができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>家庭においては今年度に予定をしていた調理実習が2年生学年閉鎖によって予定の内容を変更して実施をした。このような不測の事態のために夏の終わりごろに調理実習を予定すべきだと感じたので、来年度より時期を見直して行いたい。</p>	
<p>取組内容⑩【４－３ 英語教育の強化】〈英語〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書やパワーポイント等の ICT 教材を活用し、視聴覚に働きかけて生徒の英語への興味・関心を高め、「わかる授業」を展開する。 ・C-Net と連携して生徒が自分の考えを英語で表現する授業を展開する。 ・単元ごとに小テストを継続的に行い、基礎学力の定着を図り、学力差を軽減する。 <p style="text-align: right;">（カリキュラム改革・グローバル化改革関連）</p> <p style="text-align: right;">（誰一人取り残さない学力の向上）</p>	
<p>指標：・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を全学年75%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で単元テストを行い、正答率を6割以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかる」に対する肯定的回答は総計84.9ポイントであり、学年ごとの結果でも指標を上回ることができた。しかし、学年で1割以下は「わからない（そう思わない）」と回答している。 ・単元テストは生徒自身が学習進捗を実感でき、定期テストの予行演習ともなり、効果は高かった。正答率には揺れがあるが、最近実施のものでは約84.3%と、指標を上回ることができた。 ・その一方で、定期テストでは1桁や10点台の生徒が全学年・各クラスに若干名おり、学力差が大きい。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストで20点未満の生徒を減らす。 	

<p>取組内容⑪【5-2 健康教育・食育の推進】〈健康教育部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『食育つうしん』の活用、保健委員会からの活動などを通して「食」に対する意義を理解させ、さらなる意識の向上を図る。 ・保健委員会の活動を通して健康な心と体の育成に務める。 ・環境委員会の活動や清掃活動を通して、校内美化の向上、校内施設・設備・備品の安全管理を徹底する。 (健やかな体の育成) 	B
<p>指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査において「給食をしっかりと食べている。」の項目で、ポジティブ回答を90%以上にする。 ・校内調査において「早寝・早起きなど規則正しい生活を心掛けている。」の項目で、ポジティブ回答を70%以上にする。 ・校内調査において「学校は清掃が行き届き、いつもきれいである。」の項目で、ポジティブ回答を85%以上にする。 ・保健委員会から集会・放送・学活などの機会を利用した啓発活動を行う。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①「給食をしっかりと食べている。」の項目で、ポジティブ回答が93%で指標[90%]を上回った。③「学校は清掃が行き届き、いつもきれいである。」の項目は、ポジティブ回答が89%で指標[85%]を上回った。一方で、②「早寝・早起きなど規則正しい生活を心掛けている。」の項目は、ポジティブ回答が69%で少し指標[70%]を下回った。</p> <p>関係する2つの委員会（保健委員会・環境委員会）は、衛生に関しての啓発や教室の環境整備等に、積極的に活動できている。給食に関しては、栄養教諭を中心に、調理室の新設に伴うさまざまな変化に対応できている。清掃に関しては、定期的に清掃用具を交換・メンテナンスし、学校全体の意識向上にも努めている。今後も継続して指標を達成できるように取り組みたい。性教育に関しては、教職員が授業をするとともに、助産院の講師の方も呼び出して話していただき、生徒への啓発を行うことができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー個別対応オンラインシステム「つばさ」の運用開始に対応していく。 ・保健委員会・環境委員会における生徒主体の活動をさらに増やす。 	

大阪市立白鷺中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を87%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「ICT 機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6-1 ICTを活用した教育の推進】(授業研究G・ICTG)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や様々な教育活動において、ICT機器を活用し、学力向上をめざした授業研究を進める。 ・一人ひとりの教員がICTを授業の中で有効活用して、自分の思う「わかりやすい授業」「考えさせる授業」ができるようにサポートを行う。 <p style="text-align: center;">(教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)</p> <hr/> <p>指標：校内調査において「(生徒用PCの使用や、話し合い活動を通して)積極的に授業に参加している」の項目において学校平均80%以上を達成する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
校内調査において当該項目は92%となり、目標を大きく上回っている。	
次年度への改善点	
積極的に参加している生徒が多数いるため、継続している取り組みを学力向上につなげていきたい。研究授業の参観などを通じて、各教員の工夫などを共有することで学校全体としてより良い授業を実施できるようにしていきたい。	
<p>取組内容②【6-1 ICTを活用した教育の推進】(ICTG)</p> <p>学習者用端末の利用を積極的に推し進め、使用のルールの周知を図りながら、端末やACアダプタの管理を行う。</p> <p style="text-align: center;">(教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)</p> <hr/> <p>指標：生徒意識調査で「ICT機器を使った授業」に対するポジティブ回答78%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
生徒意識調査の結果、「ICT機器を使った授業は楽しい」のポジティブ回答が全体で90% 「ICT機器を使った授業を通して、学習への関心が高まった」に対するポジティブ回答が全体で78%と目標を上回る事ができた。	

次年度への改善点	
改めて端末の使い方やルールの確認、ネットリテラシーの向上を目指していきたい。授業で使える機能などの周知に取り組んでいきたい。	
取組内容③【8-3 学校図書館の活性化】〈図書委員会〉 ・読書習慣をつけるために、放課後開館等、図書館の利用を推進する。 (生涯学習の支援)	C
指標： ・生徒1人の平均貸し出し冊数を2.0冊になるように、取り組みをすすめる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・今年度、図書室の開室は例年通り5月の連休明けから開室できる日はすべて開室した。また、図書の蔵書点検も夏休み中に終わることができた。しかし今年度の目標である1人の図書の平均貸し出し冊数は12月末で1.3冊と目標には届かなかった。	
次年度への改善点	
・図書の精選と充実。 ・図書室に興味を持ってもらうよう、図書委員などを通じて声掛けをしていく。	
取組内容④【9-1 教育コミュニティづくりの推進】〈元気アップG〉 ・元気アップ地域本部事業やそのボランティアとの連携を、地域に役立つ人材やリーダーの育成をはかる。 ・地域イベントへの参加、元気アップコーディネーターとの連携を通して地域貢献を行い、地域との繋がりを深める。(家庭・地域等と連携・協働した教育の推進)	A
指標：地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、「地域の方と交流するのが楽しい」「地域の方と積極的に交流できた」の項目でポジティブ回答が共に83%以上を目指す。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
指標のアンケート項目については、どちらの項目ともポジティブ回答が100%であった。今年度の模擬店は昨年度で出店した食品ではなく、「わなげ」「お菓子釣り」「生徒会が考え、作ったゲーム」を出店した。生徒たちは、元気アップ隊として地域交流会等に参加することを楽しく思っているようで、普段体験できないようなことを通して、人間的に成長していくことを感じ、活動にやりがいを持っている様子であった。「次年度も参加したい」という回答もあった。	
次年度への改善点	
参加した生徒のアンケート内容は良かったものの、「活動に参加できなかった」生徒が数名いた。家庭や部活動の兼ね合いもあるので、全出席は難しいが、年に一回は参加できるような取り組みを考えたり、声掛けをするなど生徒が自主的に参加したいと思える環境づくりを心掛けていき、学校と地域とのつながりを深めていきたい。	
取組内容⑤【7-1 働き方改革の推進】〈管理職〉 ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 (人材の確保・育成としなやかな組織づくり)	B
指標： ・年度末に勤怠システムで、年次休暇取得率を確認する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
1月末現在で、年次有給休暇を10日以上習得する教職員の割合は91.7%となり、達成できた。	
次年度への改善点	
今後も業務改善を図り、長時間勤務の縮減を進めていく。	